

専大玉名に敗退しベスト4ならず！！

済々黌ラグビーOB会の皆さまへ

高校総体準々決勝、対専大玉名戦は6月3日（金）14時15分から運動公園ラグビー場で実施されました。済々黌は昨年の花園出場校に対し一時は同点とする善戦を見せますが、後半はややスタミナ切れかトライを積み上げられ、結局21-38で敗れました。

専大玉名が開始5分済々黌陣10m位からFWが突進し①がポスト右へトライ、さらに10分にも今度はBKのライン攻撃で②が中央へトライし0-14とします。

済々黌は12分キックしたボールに素早く反応しうまくつないで、⑨吉野が中央まで持ち込み反撃のトライ（G成功）、7-14。

続けて相手ボールをチャージし⑬がうまく拾ってトライかと思われましたが、わずかに前に出ておりオフサイドで幻のトライとなりました。

しかしその2分後、今度は相手陣22m付近で見事なパスワークにより、⑩石田がポスト左へグラウンディング、本人がGキックを成功させ、14-14とついに同点にします。

前半終了間際に専玉FWのモール攻撃に耐え切れず左隅にトライを許し、難しい位置のゴールコンバージョンも成功されて14-21で後半へ。

後半は真夏を思わせる暑さによる疲れで動きが鈍くなりますが、何とか中盤まで得点を許さない展開。しかし、14分ハーフウェイ付近のキックがスポッと胸に飛び込んだ専大玉名にトライを許し、その後18分にもPG成功で14-31。

まだまだあきらめない済々黌は28分に相手ゴール前でもらったPKからクイックプレーで相手を抜き去り最後は1年生No. 8上村が左中間に持ち込みトライ（G成功）、21-31と詰め寄ります。しかしながら最後にダメ押し1Tを追加され最終的には21-38での敗戦となりました。

点差ほどのチーム力の差はみられず、特にBKの走力は特筆すべきものがあり、FWも暑さの中耐え忍んでいましたが、チャンスどころでの細かいミスや連携プレーの正確さがやや足りなかったようです。今回出場した3年生は7名。大半の3年生はこれで現役を引退しますが、数名は花園予選まで残って頑張ってくれます。多くの3年生に最後まで意地を見せてほしいものです。

事務局：森永（S45年卒）